

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月28日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774600551
法人名	医療法人 千輝会
事業所名	グループホーム神田イン国分
所在地	柏原市片山町1-24 (電話) 072-975-1133

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(平成21年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	25人	常勤	17人, 非常勤 8人, 常勤換算 18人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 及び 42,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有 (円) ④		
保証金の有無 (入居一時金含む)	⑤ (300,000円)	有りの場合 償却の有無	⑥ / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,650円		

(4) 利用者の概要 (平成21年2月15日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	6名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.6歳	最低	74歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神田医院、久野歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の医療法人が運営するグループホームで、近隣に母体医院や訪問看護ステーション、小規模多機能居宅介護事業所があります。「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事ができるように、私達は温かく支援します」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。認知症状が重度化した利用者も和気あいあいと楽しげに生活しています。母体医院の医師と同一法人の訪問看護ステーションの看護師との医療連携により利用者に必要な医療と看護を提供しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。利用者の思いや意向を把握するため毎日の気付きを「気付きシート(新様式)」に記録するようになり、全体会議やフロア会議、家族も参加するサービス担当者会議でケース検討を行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価については、管理者は職員と議論をしながら完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、話題によっては消防署や警察署員、家族の参加のもと、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの地域住民や同業者との交流、職員のスキルアップのための施策、地域における認知症についてのホーム主催の定期的な勉強会の開催等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。毎月、行事の実施状況を写真にして載せた「ホーム便り」や献立表とともに、職員が手書きで利用者の健康状態や生活ぶりを記した手紙を添えて家族に送付しています。家族とは面会時だけでなく、家族も参加する季節毎の行事の際にケアプラン作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を現せるように対応しています。「疑問と質問」「苦情と相談」それぞれ投函できる箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	ホームの納涼祭や敬老会では地域住民やボランティア、子どもたちが訪れ、太鼓の演奏や踊り、カラオケ、子どもたちのダンス等を楽しんでいます。保育園児に来てもらい、また中学生が体験学習に来ています。職員は地域にかけ、行政の協力も得て、定期的に認知症の勉強会を主催・開催しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事ができるように、私達は温かく支援します」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。年間の事業計画や月例の全体会議、四つの委員会、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームの納涼祭や敬老会では地域の住民やボランティア、子どもたちが訪れ、太鼓の演奏や踊り、カラオケ、子どもたちのダンス等を楽しんでいます。保育園児の来訪があり、中学生が体験学習にきています。職員は地域に出かけ、行政の協力も得て、定期的に認知症の勉強会を主催・開催しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。利用者の思いや意向を把握するため、毎日の気付きを「気付きシート（新様式）」へ記録するようになり、全体会議やフロア会議、家族も参加するサービス担当者会議でケース検討を行っています。管理者は職員と議論をしながら自己評価を完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民、話題によっては消防署や警察署員、家族の参加のもとで、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議では、ホーム周辺地域や同業者との交流、職員のスキルアップのための施策、ホーム主催の地域住民に向けた認知症勉強会の開催等について説明し、意見交換を行い、地域との相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは常に相談や情報交換を行い、行政の事業者連絡会にも参加してサービスの向上に取り組んでいます。市の協力を得て、ホーム職員が主催・開催する地域での認知症の勉強会を定期的実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。毎月、行事の実施状況を写真にして載せた「ホーム便り」や献立表とともに、職員が手書きで利用者の健康状態や生活ぶりを記した手紙を添えて家族に送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、家族も参加する季節毎の行事の時やケアプラン作成時にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。「疑問と質問」「苦情と相談」それぞれを投函できる箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全員が継続して1年以上在職しており、大半の職員が勤続年数3年以上であるため、利用者との馴染みの関係が深くなっています。「回想法」(人生の歴史や思い出を、受容的共感的な態度で聞くことを基本的姿勢とする)の学習効果もあって認知症が重度化している利用者と職員の会話だけでなく、利用者同士の会話も弾むようになり、和気あいあいとした雰囲気があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成教育に熱心で、資格取得を支援するため内部で研修やトレーニングを実施し、今年も数名の職員が国家試験に合格しています。外部研修にも積極的に参加しています。ホーム内でも伝達研修を行うとともに、スキルアップのため「自らのケアの質を振り返る自己チェックリスト」を使った育成プランを実行したり、大学院生に「回想法」演習の場を提供したり、職員も学習を行い利用者との会話に効果をあげています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府の要請で実習の場を提供しています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入して、グループホーム間の相互研修を実施するとともに、近隣のグループホームとも勉強会や交流をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が家庭訪問を行っています。また本人や家族がホームに来訪するなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居、サービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。園芸に通じた方、習字の好きな方、キーボードをひきながら歌う方など、家事や行事の機会を通して、利用者の得意分野で学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用者からの聞き取りを行っています。またその後、毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や思いの新たな気付きを「気付きシート(新様式)」に毎日記録することにより、日々のケアや暮らし、楽しみごとに生かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーと職員で時間をかけて十分なアセスメントを行い、利用者の暮らしぶりや願い、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を反映させ、介護計画を作成しています。適切な介護計画のもとで介護を受けている利用者は、認知症状が重度化しているにも関わらず、生き生きと元気よく過ごしています。入居後に症状が和らぎ、職員や他の利用者との交流できるようになった利用者もいます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画の援助項目毎に毎日の実施状況を記録し、ケアマネジャーは3ヶ月毎にその結果を反映させて総括のアセスメントを実施し、援助項目の修正につなげています。大きな状態の変化がある時はセンター方式の心身の情報シートも使って職員の意見を集約し、家族も参加するサービス担当者会議を開いて介護計画の見直しにつなげています。しかし、利用者に状態の変化がない時は1年毎に介護計画を更新していますが、この期間を6ヶ月に短縮することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	母体医院の医師と同一法人の 訪問看護ステーションの看護 師との医療連携により、必要 な医療と看護を提供しています 。ホームでは必要の都度通院 介助も行っています。地域のボ ランティアの支援を受け、同一 法人のデイサービスのイベント にも参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られた、かか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	母体医院の医師による往診医 療を受けていますが、診療科 目によっては入居以前の、か かりつけ医療機関から引き続 き医療を受けています。母体 医院と連携し、夜間や急変時 の対応についての体制も整備 されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	過去に看取りを行った利用者 もおり、現在も終末期対応を 実施している利用者がいます 。入居時に、ホームでの重度 化・看取り支援の方針を伝え 、意向の確認をしています。状 況の変化とともに、利用者 と家族、医師、ホームとの話 し合いを行い意向の確認を続 けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。入浴や食事の時間、衣服の選択等について柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みも取り入れた献立表にしたがって職員が調理しています。買物から、食事準備、下ごしらえ、味見、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で積極的に参加しています。職員は利用者と同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。月に2回は「神田喫茶の日」を設定し、旬の材料を使ったケーキやお餅等、おやつを作って喫茶店の雰囲気を楽しんだりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴ができ、平均して週3回程度の入浴ができています。毎日入浴している利用者もいます。月に2回「温泉の日」を設け、季節の草花や果物を浮かべたり、BGMを流したり、香をたいたりして利用者に入浴を楽しんでもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者が共同で季節毎の花などの自然や風物、行事を表現する大型の作品を作ったり、読書や裁縫を楽しんだり、クラブ活動で手芸や習字、おやつ作りをしたり、月2回の「神田喫茶の日」を楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な周辺の川や公園への散歩のほか、利用者の希望を聞いて買い物や外食を楽しみ、季節の花や風物、行事を楽しむ外出もしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアドア、エレベーター、玄関扉とも日中開錠しています。外出希望のある利用者にも見守りにより対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄も行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、専門家の指導を参考にしながら医師や看護師にも相談しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	桜並木の川に面し自然に恵まれた所に立地し、玄関口には季節の花が植えられていて訪ねやすい雰囲気になっています。大きな窓から桜並木を見通せるリビング兼ダイニングルームは、明るく開放的でゆったりとしたスペースで、畳のあるコーナーやソファが寛げる居場所になっています。壁に貼られた季節感のある大型作品やクラブ活動で作った手芸作品も飾り、生活感のある家庭的な空間になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が整理ダンス、洋服ダンス、鏡台、机と椅子、テレビ、仏壇や遺影、手作り手芸作品等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、家族が活けた花や実家の写真、家族が編集しコメントをつけた家族の写真集なども飾られており、家族の思いが感じられ、落ち着き安心して生活できる空間になっています。		